

A10 Thunder CFWによりプロキシの負荷を45%軽減増え続けるクラウドサービス利用に柔軟に対応できる環境整備へ

顧客名:

清水建設株式会社

業種:

建設業

A10 のソリューション:

A10 Thunder CFW採用の「FUJITSU Cloud Service セキュアゲートウェイサービス」

課題:

- インターネット通信が年々増加する中、建設業向 けクラウド BIM サービス利用による業務への影響を懸念
- Office 365 の全社展開により、既存プロキシの セッション数の許容量に不安も
- 今後のクラウドサービスの活用増加にも対応でき、 継続的な運用のための簡便なオペレーションと サポートの充実

導入効果:

- A10 Thunder CFW 採用のゲートウェイサービス により既存プロキシの負荷を 45%軽減
- クラウドサービスの活用に応じ、ネットワークトラフィックを柔軟にスケールアウトできる環境の整備
- 手厚いサポートにより4カ月という短期間で 検証から導入までを完遂



清水建設株式会社 デジタル戦略推進室情報システム部 インフラ企画グループ長 須田 大士氏



清水建設株式会社 デジタル戦略推進室情報システム部 システム運営グループ 清宮 康介氏



富士通株式会社 ネットワークサービス事業本部 五島 彰二氏



富士通ネットワークソリューションズ株式会社 民需インテグレーション統括部 マネージャー 齋藤 久雄氏

子どもたちに誇れるしごとを。
SHIMIZU CORPORATION ② **清水建設**





富士通ネットワークソリューションズ株式会社

■ 既存プロキシの負荷を45%軽減できました。 セッション数などの効果も加味すると、ネットワーク全体で

多大な効果を得られています**゙**

清水建設株式会社 デジタル戦略推進室情報システム部 インフラ企画グループ長 **須田大士氏**



スーパーゼネコンの1社として多くの施工実績を持つ清水建設株式会社では、クラウドサービスの活用に伴うトラフィック増大の影響を最小限に抑えるべく、富士通の「セキュアゲートウェイサービス」を活用しています。このゲートウェイサービスのクラウド通信オフロード機能として採用されているのが、A10ネットワークス(以下、A10)のセキュリティプラットフォーム「A10 Thunder® CFW」です。

課題:業務への影響が懸念されたトラフィック増大への対応が急務に

越中富山の大工だった初代清水喜助が江戸の神田鍛冶町にて1804年に創業、現在は総合建設会社としてスーパーゼネコンの一角を担っている清水建設株式会社。建築における高度な技術力を武器に、ビルや文化施設、マンションなどの施設だけではなく、橋梁やダムなどの社会インフラを含めた数多くの施工実績を国内外で誇ります。2019年5月には新長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」を策定し、建設事業の枠を超えて新たな価値を創造する「スマートイノベーションカンパニー」を目指して事業を推進しています。

そんな同社において、これまで運用してきた既存プロキシに対する課題が顕在化したのは、BIMデータにおけるクラウドサービスの利用に関する相談が寄せられたことがきっかけでした。「サイズの大きなBIMデータをクラウドで利用するためには、広帯域なネットワークが必要です。現状のインターネット回線に相乗りすると、既存業務に悪影響を及ぼす可能性がありました」と説明するのは、全社に展開するインフラ基盤の企画導入を担当している清水建設インフラ企画グループ長須田大士氏です。

同社は、働き方改革の一環として Office 365の全社導入も検討しており、既存プロキシが持つセッション数の許容量も考慮する必要がありました。今後のクラウドサービスの利用拡大も見据えて、同社がその解決策として検討したのが、既存プロキシを経由せずに、特定トラフィックをインターネットに迂回させるクラウドプロキシソリューションです。

検証: A10 Thunder CFW のクラウドプロキシを採用したセキュアゲートウェイサービスに注目

既存プロキシを補完する形で、データセンターから抜けるゲートウェイ部分で特定トラフィックを迂回するクラウドプロキシが最適だと考えた須田氏。「既存プロキシの増強も解決策の1つでしたが、今後クラウドサービスの利用がさらに増えていく中で、どこまで拡張していけるのかという不安がありました」と言います。そこで注目したのが、同社のネットワーク環境の設計から構築、運用までを手掛けてきた富士通が提案した「FUJITSU Cloud Service セキュアゲートウェイサービス」でした。

同サービスにおいて、トラフィックを迂回するクラウド通信オフロード機能を実現しているのが、A10のセキュリティプラットフォーム「A10 Thunder CFW」です。「当時、クラウドプロキシを提供していたのは

A10 のみで、どのベンダーも A10 のクラウドプロキシソリューションを提案してきました」と須田氏。

A10 Thunder CFW を自社のソリューションに組み込んだ理由について、富士通ネットワークサービス事業本部 五島 彰二氏は、「ワンストップな提案をする我々にとっては、機能だけでなく運用面で十分な環境を整備できることが重要です。A10 はサポートも充実しており、バグフィックスの対応も迅速。技術的な交流会も通して双方で関係性を高めていたこともあり、A10 が我々のセキュアゲートウェイサービスに最適だと判断しました」と語ります。

清水建設においても、今後活用が想定されるさまざまなクラウドサービスにも対応でき、簡便に運用できることを要件として挙げていました。「運用設計においては、サポートがしっかりしていることが何よりも重要です。同時に、継続的に運用するためには、設定変更が容易にできるなど、分かりやすいオペレーションであることも大事なポイントで、A10であれば十分にその要件を満たしていると考えました」と清水建設システム運営グループ清宮康介氏は説明します。

ソリューション: 多数の実績を持つクラウドプロキシにより 社内ネットワークを最適化

A10 Thunder CFW は、クラウドプロキシを含む、サービス・クラウド事業者やエンタープライズに必要なセキュリティ機能を統合した高性能なセキュリティプラットフォームです。

A10 Thunder CFW のクラウドプロキシは、Office 365 や G Suite などのクラウドサービスの活用やWindows Update などにより増大したトラフィックを迂回させることで、プロキシの負荷を軽減し、業務に影響を与えない最適なネットワーク環境を実現します。A10のAPIや、頻繁に変更されるOffice365のURLの自動更新を行うことが可能な富士通ネットワークソリューションズのDLIST Manager のようなパートナーの提供サービスと連携することで、運用負荷も軽減します。さらには、トラフィック制御によりクラウドサービスの個人利用を制限したり、暗号化通信を悪用する攻撃を可視化したりすることで、ネットワークの安全性を確保することもできます。

A10は、2014年に日本市場でいち早くクラウドプロキシソリューションを展開し、さまざまな企業の社内ネットワークを最適化した実績と知見を有しています。

導入効果: 既存プロキシの負荷を45%軽減、将来的なサービス拡張にも対応できる基盤を整備

清水建設は今回、全体のネットワーク環境も見直しながら、「FUJITSU Cloud Service セキュアゲートウェイサービス」でA10 Thunder CFWのクラウドプロキシを採用し、特定のトラフィックをインターネットに迂回させる環境を構築しました。「本社はもちろん、支店や営業所、施工現場に設置される事務所など、およそ1,000箇所からのインターネット通信すべてが、セキュアゲートウェイサービスを経由します。業務に利用するPC はもちろん、タブレットやスマートフォンなど、およそ4万台のデバイスの通信を同サービスが支えています」と清宮氏は説明します。現状は、Webカメラやクラウドストレージなどのプロキシを経由するのが難しいサービスも含め、10を超える特定トラフィックを迂回させ、さらには必要に応じて柔軟にスケールアウトできるよう整備するなど、利用するインターネットサービスに適した通信経路分散を効果的に実現しています。

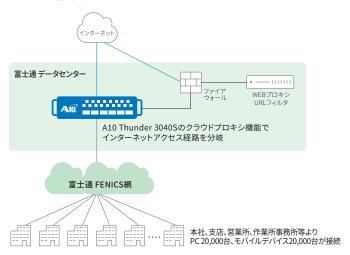
実際に「セキュアゲートウェイサービス」の利用により、既存プロキシの負荷は45%軽減されました。「他企業ではOffice 365の導入によってプロキシの限界を迎え、やむなく刷新せざるを得なかったという事例も聞いています。我々はトラフィックを振り分けられる環境を事前に構築したことで、結果的にOffice 365がスムーズに展開できました」と須田氏は高く評価しています。

また、マスメディアでの紹介による突発的なアクセスの増加など、さまざまなイベントでネットワーク帯域が圧迫されるリスクを抱える同社に対して、業務に影響を与えない快適なネットワーク環境が実現できたと実感しているのは、富士通の五島氏です。「昨今はEDRなどセキュリティソリューションを含めて、常時セッションが必須なサービスが増えてきています。そのようなトラフィックに対しても柔軟に対応できます」と言います。

本プロジェクトでは、当初想定したクラウドサービスの利用開始時期に合わせ、およそ4か月という短期間で、設計から検証、導入までを完了させる必要がありました。「セキュアゲートウェイサービスを含めたネットワーク環境全体を再現することはもちろん、アプリケーションごとにヘッダ情報を解析してオフロードの設定をするなど、短期間で多くの検証作業が必要となりました。予定通り実装できたのは、A10のノウハウを活用し、多方面で密な連携をとれたためです」と富士通ネットワークソリューションズ 民需インテグレーション統括部マネージャー 齋藤 久雄氏は評価します。

A10のクラウドプロキシの導入実績が豊富な富士通ネットワークソリューションズは、日本でのサポートが充実しているだけでなく、同グレードの他社製品に比べてコストパフォーマンスに優れている点も大きな魅力だと語ります。

ネットワーク構成図



今後の展開: 利便性を確保しながらよりセキュアな環境づくりに取り組む

清水建設は、法人・個人双方で利用されるクラウドサービスにおけるテナント制御など、セキュアゲートウェイサービスを利用したさらなるトラフィック制御を計画しています。また、SSL通信が多い現状を受け、A10 Thunder CFWのSSL通信可視化機能にも興味を持っていると須田氏。「オフロードした先はクラウドサービス側のセキュリティに依存することも少なくありません。SSL可視化も含め、ガバナンス強化にも取り組んでいきたいです」と力説します。

同社は、今後利用するクラウドサービスが A10 で制御可能かどうかの検証を進めつつ、快適なクラウド活用のための環境づくりをさらに推し進める考えです。「クラウドサービスの通信形態、特性を通信ログ分析などにより富士通と連携して調査を行い、オフロードできるものを見極めていきたいです。オフロードだけでなく、さらにきめ細かい制御も実施しながら、安全かつスムーズにインターネットやクラウドサービスに繋げられるようにしたいです」と清宮氏に語っていただきました。

A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks (NYSE: ATEN) はセキュアアプリケーションサービスにおける リーディングカンパニーとして、高性能なアプリケーションネットワーキン グソリューション群を提供しています。お客様のデータセンターにおいて、 アプリケーションとネットワークを高速化し可用性と安全性を確保しています。 A10 Networks は 2004 年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼ に本拠地を置き、世界各国の拠点からお客様をサポートしています。

A10 ネットワークス株式会社は A10 Networks の日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワーキングソリューションをご提供することを使命としています。

詳しくはホームページをご覧ください。

URL:http://www.a10networks.co.jp/

Facebook: http://www.facebook.com/A10networksjapan

(記載された内容は2020年5月時点の情報です。)

LEARN MORE

ABOUT A10 NETWORKS

お問い合わせ: a10networks.co.ip/contact

A10ネットワークス株式会社

www.a10networks.co.jp

©2020 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 Networks. 口1、ACOS. A10 Harmonyは米国およびその他各国における A10 Networks, Inc. の簡標または登録報告機です。その他の簡標は それぞれの所有者の資産です。A10 Networks は本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networks は、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がごいますので、ご注意ださい。商帳について詳しくはホームページをご覧ください、www.a10networks.com/a10-trademarks Part Number: A10-CS-Shimizu-01 Mar 2020